

令和 2 年 6 月 27 日現在

機関番号：32683

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K04319

研究課題名(和文) 異文化間対人コミュニケーションの違和感と不適応：地位と性の影響

研究課題名(英文) Intercultural discomfort and maladjustment in interpersonal communication: The Influences of social position and sex

研究代表者

内藤 哲雄(Naito, Tetsuo)

明治学院大学・国際平和研究所・研究員

研究者番号：20172249

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：日本の大学に留学あるいは勤務する外国人を対象として、地位が上下あるいは同格であること、また性別の異同(社会的なヒエラルキー)が、対人コミュニケーションにどのような違和感や不適応をもたらすのかを、PAC分析を通じて探索していくことが本研究の目的であった。PAC分析は、被検者に自由連想項目同士の類似度の近さを回答させクラスター分析し、その構造のイメージを被検者本人に聞く方法である。本課題研究では、日本のように、地位の上下や性に依りて言語の使用に大きな違いが見られる国がある一方、社会的ヒエラルキーによる違いがほとんど見られない国もあり、地位と性の文化的スキーマがかなり異なることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

筆者はこれまでの科学研究費による一連研究で、人間関係、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーションで、それぞれの文化に規定されたスキーマ(認知的枠組み、暗黙裡の理論)が存在することを明らかにしてきた。本研究課題では、出身国の異なる留学生らを対象として、社会的地位と性が対人言語行動のスキーマに及ぼす影響を探索することであった。結果は、社会的地位と性に依りて言語が大きく異なる日本の特異性を示していた。これらの結果は、文化の違いによる戦略的スキーマの違いに依りての異文化適応の教育に利活用でき、外国人や帰国子女の日本人との対人コミュニケーションでの違和感や不適応の改善に有用であるといえよう。

研究成果の概要(英文)：The scheme of interpersonal communication is so naturally embedded in social lives that we are hardly aware of it. But, when foreigners reside not so long, they develop their schema and notice cultural differences between two countries. We found already individual schemes about human relations, interpersonal communication, and interpersonal nonverbal communication by comparing their cultures with Japanese style. The aim of these studies was to compare the influences of social position and sex in interpersonal communication among cultures by Analysis of Personal Attitude Construct. This technique was created to research one subject operationally and objectively by Naito. The subjects of these research were mainly international students at Japanese university. Results of revealed individual scheme. The Influence is peculiar to Japanese where language changes according to the difference of position and sex. We could make use of these results in intercultural communication.

研究分野：臨床社会心理学

キーワード：異文化間コミュニケーション 地位 性 PAC分析 事例研究 了解的解釈 現象学的データ解釈技法

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

筆者は、文部省在外研究員(カリフォルニア大学アーヴァイン校:UCI)、信州大学留学生センター長を経験したことから、在日外国人留学生の母国と日本での人間関係の様式(人間関係スキーマ)の違いが日本への異文化適応に際して違和感や反発をもたらすことを推論するようになり、科学研究費での研究に着手した。ついで、人間関係だけでなく、相手とどのようにコミュニケーションするかの対人コミュニケーションのスキーマの違いが違和感や不適応に関連すること、しかも個々の要素の差異だけでなく、それらの背後で統合する戦略的な認知的(理論的)枠組みの違いに注目した。調査研究を進める中で、さらに非言語コミュニケーションでも見られることに気づいた。しかも、アイコンタクトの回数やその合計時間のような個別の要素ではなく、どのように発信し、どのような人間関係を構築・維持しようとするのかの、非言語コミュニケーションを通じての「戦略」そのものがスキーマとして獲得されていることを明らかにした。これらの科学研究費による一連研究に続いて、さらに関心を持つようになったのが、社会的地位や性のヒエラルキーへの対処がスキーマとなり対人行動の枠組みとして機能しているのではないかとの問題意識を感じるようになった。

### 2. 研究の目的

日本語には、相手の社会的地位に合わせての丁寧語や敬語表現が多く、男言葉・女言葉に代表されるように性に合わせたコミュニケーション、対人行動に特徴があるといえよう。それでは文化的背景の異なる外国人留学生は、実際にどんな違和感や不適応感を体験しているのだろうか。日本と母国での個別要素の差異や、その背後に存在し(無意識に獲得し暗黙裡に実行することの多い)スキーマを探索することが目的とされた。

### 3. 研究の方法

在日期間がそれほど長くない外国人留学生は、母国と異なった対人スキーマの違いに敏感である。これが外国人留学生を被検者とする理由である。また、通常のアンケート調査では、被検者本人では意識化することが困難な暗黙裡に持つスキーマを探索するのに有効な方法としては、個人体験の感覚やエピソードを自由連想で引き出す、認知科学の用語では長期記憶にアクセスさせること、そしてその構造を操作的・客観的に析出していくことであろう。これらの条件に適合する典型的技法がPAC分析である。PAC分析のPACは、Personal attitude Construct(個人別態度構造)の略称であり、「パック」と発音される。現在では、利用の仕方によっては、認知やイメージの構造、心理的場、アンビバレンツ、コンプレックスまで測定できることが確認されているが、その名称の由来が示すように、元々は個人別に態度構造を測定するために筆者によって開発されたものである(内藤, 1993)。この分析法は、当該テーマに関する自由連想(アクセス)連想項目間の類似度評定、類似度距離行列によるクラスター分析、被検者によるクラスター構造のイメージや解釈の報告、検査者による総合的解釈を通じて、個人ごとに態度やイメージの構造を分析する方法である。

本研究では、外国人留学生らを対象として、(1)社会的地位と性に関連しての日本での対人コミュニケーションへの違和感、(2)社会的地位や性に関連しての対人コミュニケーションの日本の特徴、(3)社会的地位や性に関連しての対人コミュニケーションの母国の特徴、の3テーマに関してのPAC分析を実施した。

### 4. 研究成果

本研究課題の調査研究の成果は、国内学会大会での発表が1件で、他は今後の発表予定も含めて、国際学会での発表であった。

スリランカ人を対象とした調査(Naito, APA2018で発表)では、スリランカの対人コミュニケーションにおいては尊敬語や謙譲語がなく、相手との地位が上下で異なっても、性が異なってもほぼ同じ言葉を使う。日本での対人コミュニケーションでは、目上には尊敬語や丁寧語を多く使い、また男女で用いる言葉に違いがあり、女性から男性に対しては丁寧語を使うことが多いなど、対人コミュニケーションに地位と性の影響が強いことが明らかとなった。また同じくスリランカ人を対象とした調査で、日本人の組織内における対人コミュニケーション(内藤, 2018 PAC分析学会第12回大会にて発表)においては、地位の上下間で、尊敬語、謙譲語などの言語コミュニケーションにおいてだけでなく、非言語コミュニケーションにおいても丁寧さの違いが大きかった。

中国人女性を対象とした調査(Naito, ECP2019にて発表)では、日本人は、同輩に普通語、目下に簡潔が指示。サービス業では地位に関係なく相手に丁寧に応答。他方中国人は、目上にも自己主張する。目下には簡潔な表現を用いる。見知らぬ人には敬語や尊敬語を使用する。重要

なこと(話題)は最初に言い、本音で話しかけ、目を見て話す。日本人は重要なことは最後に話す。

中国人男性を対象として調査(Naito, AASP2019)では、<日本人との違和感>は、日本では男性と女性とで言葉が違うこと。女性は男性に丁寧。敬語は地位や状況に応じて多様に変化する。ビジネスでは相手の地位、性に関係なく丁寧に応答することが述べられた。

中国人男性の調査(Naito, APA2019で発表)では、**日本人同士**は、同輩、目下には普通語で話す。男性から女性には丁寧。女性は男性のいる所では女言葉(女性特有の言葉)を使い、静かに話す。女言葉は丁寧でソフトだが、男は滅多に使わない。女性は男言葉を時々使う。同格や目下とは社会距離を保つ形式的表現が多い。これに対して、**中国人同士**は、年齢や故郷が近いとか関係が良いと目上にも普通語を使う。男性はダイレクトに話す(直接的に表現する)。女性同士は身体動作を使う。男女で言葉の違いは多くない。

中国人男性を調査対象とした(Naito, APA2020 新型コロナ流行のため集合しないでネットでの開催)では、**日本人**の対人コミュニケーションで、自己主張や目立つことをしない。トラブルを避ける。直接的言い回しを避ける。男性は女性に丁寧に話しかける。女性は相手の男性が間違っているでも「そうですよね」としばしば答える。婉曲と思いやりが基調。原則に固執する。他方で、**中国人同士**は、相手が目上でも自己主張する。異見を受け容れ、原則抜きに調整する。敬語の使用は少ない。話す時、目を注視(アイコンタクトを重視)。中国人同士では傾聴と率直な対話が基調。

タイ人女性を対象とした調査(Naito, ICP2020→新型コロナ流行のため2021に延長)では、**日本人同士**は、男性は、女性に対しては穏やかに話すし、悪い言葉を使わない。「お願いする」(依頼)の表現を頻繁に使う。何度も挨拶を繰り返す。自分の意見を直接表現せず、形式的で穏やかな表現を大量に使い、寡黙で遠回しの表現をする。他方で**タイ人同士**では、男性は女性を尊重し、助ける。汚い言葉を普通に使い、友達には滅多に挨拶せず、「おねがいします」を滅多に言わない。見知らぬ人でも自由に話す。

以上のように、本課題研究では、スリランカ、中国、タイ国の留学生たちを対象として、日本と母国での対人コミュニケーションでの違和感をPAC分析することで、とくに日本において社会的地位の上下と性に違いに応じて言語が変化するという特異性が明らかとなった。これらの結果は、外国人や帰国子女の日本人とのコミュニケーションでの違和感や不適應の改善に有用であるといえよう。

#### 引用文献

内藤哲雄 1993 個人別態度構造の分析について 人文科学論集(信州大学人文学部)第27号, 43-69.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 内藤 哲雄	4. 巻 第11号
2. 論文標題 PAC分析と心理臨床	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 福島学院大学大学院附属心理臨床センター紀要	6. 最初と最後の頁 3-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 2件／うち国際学会 6件）

1. 発表者名 Tetsuo Naito
2. 発表標題 Analyses of Personal Attitude Construct about the Influence of Social Hierarchy of Language
3. 学会等名 American Psychological Association (APA2018) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内藤 哲雄
2. 発表標題 日本人との対人コミュニケーションでの違和感：地位と性の異同の影響についてスリランカ人が感じるイメージ
3. 学会等名 PAC分析学会第12回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tetsuo Naito
2. 発表標題 Analyses of Personal Attitude Construct about Influences of Social Hierarchy on Language in Japanese and Chinese
3. 学会等名 The 16th European Congress of Psychology (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tetsuo Naito
2. 発表標題 Analyses of Personal Attitude Construct about the Influences of Social Hierarchy on Language in Japanese and Chinese
3. 学会等名 13thBiennial Conference of Asian Association of Social Psychology (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tetsuo Naito
2. 発表標題 Analyses of Personal Attitude Construct about the Influencec of Social Hierarchy on Language
3. 学会等名 American Psychological Association (APA2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内藤 哲雄
2. 発表標題 PAC分析の理論と実施技法
3. 学会等名 日本応用心理学会第86回大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内藤 哲雄
2. 発表標題 PAC分析入門：質的・量的方法を組み合わせた日本発の研究法
3. 学会等名 日本混合研究法学会年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内藤 哲雄
2. 発表標題 PAC分析の理論と実践：技法の有効性を引き出すためのポイント
3. 学会等名 日本質的心理学会第16回大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Testuo Naito
2. 発表標題 Analyses of Personal Attitude Construct about the Influence of Social Hierarchy on Communication
3. 学会等名 American Psychological Association（APA2020）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tetsuo Naito
2. 発表標題 Analyses of Personal Attitude Construct about the Influence of Social Hierarchy on Communication
3. 学会等名 International Congress of Psychology (ICP2020)（国際学会）
4. 発表年 2020年～2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考